

試験研究(事前)評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所
所管課 薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	Ⅱ-3-② ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	食中毒対策	食肉の食中毒菌汚染状況調査	食肉中のカンピロバクター属菌を迅速に検査する方法を模索するとともに、広く食品検査に応用して市場流通食肉の汚染状況を調査し、その実態を明らかにすることを目的とする。	カンピロバクター属菌のリアルタイムPCR法によるスクリーニング検査の検討とともに、県内流通食肉の食中毒菌による汚染状況の調査を行う。	H29	H31	A	市場流通食肉の汚染状況を調査し、そのリスクを把握することによって、加熱不足等による食中毒の危険性を広く周知できるとともに、行政指導等に寄与できる。	カンピロバクターによる食中毒は細菌性のものでは事件数が最も多く、原因食品として鶏肉が関係していると言われるが、その判明率は2割程度である。その理由としては発症までの潜伏期間が比較的長いこと、カンピロバクターは乾燥に弱く、通常の大気中では死滅していくため食品からの検出が難しいためと言われている。 食品からの分離は、少ないカンピロバクターを競合する菌がいる中から適切に増菌しなければならないため、検査法の確立が課題となっている。 したがって、食品から迅速に分離・同定できる方法が確立できれば食中毒事件での原因食品の究明に繋がるのが期待できる。 また、分子疫学調査が実施できれば疫学的に食中毒事件と原因食品の関連を追うことも期待できる。(温泉川)

試験研究(事前)評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ
所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
2	再生可能エネルギーの研究拠点・関連産業の集積・育成	新技術、新製品の開発などに関する取り組み	メタルラップスルー型太陽電池の加工技術の開発	太陽光電池セルの加工に必要なレーザーアイソレーション技術と細線電極の印刷技術を高度化し、変換率向上を図る。	産総研福島再エネ研とハイテクプラザ、共同研究企業がレーザーアイソレーション加工と細線印刷技術について開発を行う。	H29	H29	A	産業総合研究所と連携して研究開発を行う。	福島発の再エネ技術を生む可能性を感じる計画である。他の太陽電池の高効率化手法との比較を丁寧に行い、MWT型の優位性が原理と実験結果の両面で主張できることを期待している。競争が激しい分野であるので、成果発表を幅広く行って欲しい。(佐藤)
3	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	新技術、新製品の開発などに関する取り組み	実環境負荷データを再現した迅速耐久試験	ロボットが実際に受ける負荷を、台上試験にて短時間で再現する試験・評価技術を確立する。これにより、ロボット開発の期間短縮と性能向上に寄与する。	各種フィールドでロボットが受ける負荷データを取得する。その負荷を振動試験などで再現する技術を開発する。	H29	H30	A	ロボット開発の性能向上に貢献する研究課題である。	開発のスピードを向上させるために必要な研究である。信頼性確保のための試験期間が短縮への貢献が期待でき、県内産業への効果は大きいと考える。開発中の草刈りロボットのデータに頼ることへの不安がある。完成度の高いもののデータを取得し、それを用いて試験評価技術を検討することが、基本と考える。その試験評価法を用いて草刈りロボットの電子デバイスを評価して、実負荷データとの比較を行って検証するといった手順が望ましいと思う。(佐藤)
4	廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用	産業廃棄物減量化・再資源化技術支援事業	IoTモニタリングとデータサイエンスを活用した産業廃棄物減容処理のスマート化	最新製造技術活用のきっかけ・ショーケースとして、共用のトライアルシステムの実証研究を行う。具体的には、機械構造部品の点検・故障予知を行うシステムとする。	カメラや各種センサとIoTで製品の挙動データ集録する「検査モニタリングシステム」と、得られたデータの解析を行う「データ解析システム」の要素技術を開発する。また故障に影響するデータを特定、故障予知技術を開発する。	H29	H31	B	産業廃棄物の安定的な減容化が期待できる研究課題である。	廃棄物処理の高度化は重要な課題であるので、推進して欲しい。処理の手法には様々なものがある。、計画概要書には幅広く書かれているが、具体的な計画は攪拌を主とする減容処理装置のみを対象としている。焼却のようにモニタする因子(温度分布・空気量・排ガス組成などが、設備運転因子に追加)が多い手法に拡張できるか疑問である。対象を拡げすぎず、混合攪拌といった機械的動作を対象としていることを明確に打ち出し、集中して実施することが望まれる。処理する廃棄物の性状と量が一定ではないことも、処理の不安定化の一因と思われる。併せてモニタリングして解析できると、更に有効性が向上する。(佐藤)

試験研究(事前)評価整理表

試験研究機関名 水産試験場
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
5	農林水産業の再生と安全・安心な農林水産物の提供	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	有用魚種の養殖技術に関する研究（ホシガレイ養殖研究）	閉鎖循環システム等の新施設を利用し、ホシガレイを対象とした長期間飼育する養殖試験を実施し、養殖事業展開へ必要な知見を得る。	ホシガレイ種苗を異なる条件下で継続飼育し、目標サイズと目標生産尾数までの成長・歩留まり等を明らかにし、生産コストを比較検討する。	H29	H33	A	栽培漁業の推進と相まって、養殖によりホシガレイの生産・供給を安定させ、ブランド化が推進できることから「安定供給」と「ブランド化の確立」という施策目標に合致する。	ニーズに基づき、ホシガレイの安定供給に向けて、養殖技術の開発を行う研究であり、有意義な内容と存じます。ハイテクプラザ様からいただいた資料のように、ポンチ絵を一枚入れて頂けると、より内容がわかりやすくなるように感じました。 →資料を頂きありがとうございました。内容を理解することができました。資料のタイトルは「有用魚種の大量放流技術の開発」ですが、これは大丈夫でしょうか？→(回答済み)(仲川)